

## 浜の活力再生広域プラン

### 1 広域水産業再生委員会

組織名	西三河広域水産業再生委員会
代表者名	黒田 勝春

広域委員会の構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 碧南地区地域水産業再生委員会（大濱漁業協同組合、碧南市、愛知県西三河農林水産事務所）</li> <li>・ 西尾地区地域水産業再生委員会（西三河、幡豆、東幡豆、一色うなぎ漁業協同組合、西尾市、愛知県西三河農林水産事務所）</li> <li>・ 衣崎漁業協同組合</li> <li>・ 吉田漁業協同組合</li> <li>・ 愛知県漁業協同組合連合会</li> </ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県（農林水産部水産課）</li> </ul>

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	愛知県西尾市、碧南市 (人)												
	組合	所在地	正組合員数	中まき網	船びき網	底びき網			さし網	採貝	定置網	海苔養殖	その他
						外底	貝けた	水流噴射					
大濱	碧南市	101	21	42		13		3	14				8
西三河 (計)	西尾市	317			35	17	59	27	155		13	11	
栄生支所					4	44		1					
一色支所					34	4	15	7	121		13		
佐久島支所								18	11			11	
吉良支所					1	9		2	21				
衣崎			140				42	1	87		7	3	
吉田			45				1		37		1		
幡豆			46			17	17	6	1	2		3	
東幡豆			57			4	12	4	28	6		3	
一色うなぎ			125	鰻養殖 125 (99 経営体)									

## 2 地域の現状

### (1) 地域の水産業を取り巻く現状等

西三河地区の水産業は三河湾北部沿岸で主に営まれ、矢作川を挟んで東側が西尾市、西側が碧南市である。碧南市の水産業は、中型まき網や、船びき網、底びき網など様々な水産業が営まれ、特に船びき網が盛んであり、シラス、カタクチイワシ、マイワシ等を漁獲し、平成 26 年の漁獲量は約 11,000 トンである。西尾市では、東部の東幡豆、幡豆及び西三河漁協一色支所では、底びき網が盛んで、渥美外海及び三河湾でカレイ、シャコ、トリガイ、クルマエビ、ガザミ等を漁獲し、吉田～西三河漁協栄生支所の西部地区では、眼前に広がる広大な一色干潟でのアサリ水産業が盛んで、底びき網及び腰マンガにより、県内の約 85%（全国の約 45%）の約 9,000 トン（平成 26 年）のアサリを水揚げしている。また、ノリ養殖も盛んに行われ、現在は経営体数がかかなり減少したが、県内ののり生産の約 12%（約 4.5 千万枚、平成 26 年）を生産している。さらに、一色地区では、うなぎ養殖が盛んであり、全国第 2 位の生産量を誇る愛知県の約 77%（約 3,800 トン、平成 26 年）を生産している。

当地区はこの様に全国的にも有数の水産業・養殖業が営まれている。しかし、近年の食文化の多様化や、家庭における魚料理の煩わしさによる魚の消費量の低下、安価な輸入食材の普及により魚価が低迷しており、特に、リーマンショック以降、魚価の低迷が著しい。さらに、原油価格が不安定であり、水産業者の生活は不安定な状況が続いている。このため、当地区においては、特に漁船水産業で、新規就業者は少なく、高齢化も相まって、水産業者の減少が続いている。また、近年は、アサリとノリ養殖を兼業で行っていた水産業者が、好調であったアサリ水産業（腰マンガ）専業へ多数転換したが、15,000 トン前後の漁獲量を誇っていたアサリの漁獲量が平成 26 年以降、1 万トンを割り、その減少が顕著になっている。このため、水産業者の離職の大幅な増加が憂慮される危機的状況となっている。また、うなぎ養殖については近年のシラスウナギ不漁による高値や、飼料の高騰によるコスト増が経営を圧迫している。

当地区では平成 17 年に管内の 6 漁協（吉良、味沢、一色、栄生、西尾、佐久島）が合併して西三河漁協が誕生し、現在の海面 6 漁協（東幡豆、幡豆、吉田、衣崎、西三河、大濱）となった。西三河漁協は合併後、味沢と西尾の支所を閉鎖し、今後は吉良の市場を一色へ統合する等により合理化を進めている。しかし、合併により新設した荷さばき場（鮮魚）では、合併当初に比べ、利用船が水産業者の減少に伴い、取扱量・金額ともに約 6 割に減少している。同様な事例は漁船水産業が主体の東幡豆、幡豆でも起きており、市場再編等が課題となっている。また、碧南市では、民間事業者が市場を運営しているが、施設の老朽化と経営者の高齢化のため、事業を大濱漁協へ譲渡することを検討している。

当地区における共同利用施設は主に、製氷、貯氷施設及び海苔網の冷蔵庫、養鰻業者への配水に使用する養鰻水道があるが、それぞれ老朽化等に起因する問題が生じている。製氷施設については、需要の多い夏場の氷不足、冷蔵庫については、老朽化による修繕費等の経費の増加が課題となっている。また、一色うなぎ漁協が河川水を直接各養鰻業者へ配水する水道事業に使用している養鰻水道は、老朽化等による修繕費

の増大、地震に対する脆弱性等の問題がある。このような状況から、これらの施設の新設及び集約化等が課題となっている。



西三河管内漁協位置図

(2) その他の関連する現状等

【現状と課題】

当地区の就業構造は、第一次産業の占める割合が 4.8 % (碧南市)、6.2 % (西尾市) となっており、漁業においても担い手の確保が課題となっている。

また、観光資源 (寺社群、吉良ワイキキビーチ、佐久島) も多く、地区内外からの観光客を集客するイベントも開催されているが、そのような場を地区で水揚げされる多様な漁獲物をPRする場として十分に活用できていない面もある。

なお、これらの地域は沿岸部に位置するため、南海トラフ巨大地震の被害が想定され、西尾市については、多くが矢作川等の水害による浸水区域に指定されており、津波及び高潮対策等の課題もある。

### 3 競争力強化の取組方針

#### (1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

前述の地域の現状を踏まえ、当地域の取り組むべき課題として、

I 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化

II 漁業者の経営基盤の強化

III 採貝漁業の立て直し—特にアサリ漁業の復活

IV 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進

の4点に絞って取り組んでいく。

##### I 「組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化」

漁船漁業を中心に漁業者が減少し、数年後には大幅な漁船漁業者の減少が見込まれる。そこで、将来的に地域内の市場、製氷・貯氷及び冷蔵庫等の統合、新設及びそれに伴う老朽化した施設の廃止、撤去を行い、機能を集約化し、共同利用を図る。

市場については、西三河地区には現在5つの市場があり、碧南市にある大濱漁協所属の船びき網によるイワシ類主体の市場と、西尾市にある底びき網やさし網中心の4つの市場（西三河漁協一色支所、同吉良支所、幡豆漁協、東幡豆漁協）である。将来的には、西尾市の4市場を統合し、全体で2市場に集約することを目指す。碧南市の市場は現在、民間業者が運営しているが、大濱漁協が民間事業者から市場事業を譲り受け、将来の荷揚げ量を考慮した上で規模を縮小する改修を行う。規模を縮小することによる運営経費の削減効果に加え、運営主体が民間事業者から漁協へ移管することにより、現在、師崎市場や豊浜市場へ約半分を水揚げしている自組合員に対して当該市場への積極的な水揚げを促すことが可能となり、より収益性の高い運営が可能となり、漁業者にとっても、地元で水揚げでき、経費の節減になる。西尾市の市場では、漁船の減少に伴う水揚げ高の減少から集約化を図るため、西三河漁協では吉良支所の市場を廃止し、一色支所の市場に統合する。また、東幡豆漁協においても、市場を廃止し、幡豆漁協の市場への統合について検討する。将来的にはさらに統合を進め、西三河漁協一色支所の市場への1本化を目指す。一部の漁業者にとっては、地元で水揚げできない不便さはあるが、荷と仲買人が集まることで競争が一層激しくなり、単価の上昇が見込め、収益増加につながる。

製氷・貯氷施設については、大量の氷を必要とするまき網・船びき網中心の碧南市の大濱漁協の製氷・貯氷施設は築38年が経っており、製氷機、製氷棟共老朽化が激しく、建て替えが必要不可欠である。その際、将来の氷の需要量を考慮に入れ、製氷棟の建て替えを行うことで、より効率的な運用を可能とする。西尾市については、西三河漁協栄生支所、一色支所、吉良支所、幡豆漁協、東幡豆漁協及び一色うなぎ漁協に製氷・貯氷施設があるが、程度の差こそあれ、老朽化が進んでいる。これらのうち、西三河漁協の栄生支所及び吉良支所の製氷施設は将来的に廃止し、一色支所での共同利用を図る。西三河漁協一色支所、幡豆漁協、東幡豆漁協の製氷・貯氷施設は、当面稼働させるが、氷の供給が不足する場合は、新設された大濱漁協

の製氷施設との共同利用を図り、当地域の氷の供給体制の機能再編を進める。

冷蔵庫については、西尾地区の海苔養殖を行っている西三河、吉田、衣崎の各組合では、海苔網の冷蔵保存のために使用しているが、各漁協とも海苔養殖業者の減少及び冷蔵施設の老朽化により、経費が増大しているため、集約化する必要がある。また、一色うなぎ漁協は加工施設で製造した鰻製品の貯蔵に使用している冷蔵庫が築50年以上経ち、老朽化が激しく、建て替えを計画している。そこで、冷蔵庫を一色うなぎ漁協に新築し、そこに西三河、吉田、衣崎の各組合の海苔網を保管できるように、集約化し、各組合の老朽化した冷蔵庫は廃止、撤去することにより、各組合のコスト削減を図る。

一色うなぎ漁協では、うなぎ養殖に河川水を利用しているが、その河川水を矢作古川頭首工から各養鰻漁業者へ配水するための水道事業を行っている。この養鰻水道は、うなぎ養鰻に不可欠なものであるが、敷設から約50年以上が経ち、管と管のつなぎ目の劣化や管の損傷による漏水、そして耐震化による改修工事が必要となっている。総延長70 kmと長く、莫大な費用が掛かるので、計画的に改修工事を行っていく。

## II 「漁業者の経営基盤の強化」

漁船漁業においては、燃油価格の変動がその経営を不安定にしている。そのため、機関換装による、省エネ・高効率エンジン等の導入、漁船リース事業の活用による漁船の更新をもって、省力・省コスト化を推進する。また、水揚げが減少傾向にあるアサリ漁業専門業者の経営安定化を図るため、海苔養殖との兼業化を推進する。そのために、漁協が海苔加工場を建設し、漁業者が養殖した海苔をその加工場に集約、加工委託し、加工作業の効率化を図るとともに、施設への投資費用を抑えることにより、一度アサリ漁業等へ業種転換した漁業者が再び海苔養殖業に着業できるような体制を整え、漁業者の経営体力の向上を図る。かつては西三河地区全体で200経営体以上がのり養殖を行っていたが、現在はその1/10にも満たない21経営体に激減し、海苔漁場には十分な余裕が有る。このように、アサリ漁業者の中で、新たに海苔養殖を兼業しようとする漁業者の初期投資を削減することにより海苔養殖への起業を促進する。これらの施策をもって、漁業者の経営体力の向上を図る。

## III 「採貝漁業の立て直しー特にアサリ漁業の復活」

当地区の主要漁業であるアサリは、前述のように現在、危機的な状況にあり、今後の立て直しが急務である。また、アサリに変わる代替資源としてのハマグリが増殖、さらに比較的多く漁獲され、安値で取引されるバカガイの加工等による付加価値化及び名古屋圏を含む地元での販路拡大による単価増による収入増が緊急課題であり、これらの地元食材を一般の消費者に知ってもらうPR活動が必要である。

アサリ漁業の立て直し対策として、これまでの調査結果から、三河湾東部の六条潟で大量発生する稚貝を漁場に大量に移植放流することが重要である。移植は夏から秋（7月～10月）にかけて行われているが、夏場に移植することで移植後の成長が良く、翌春～初夏に漁獲サイズに達する。このように、六条潟の稚貝を最大限有効利用するため、移植後の最大の成長が見込める夏場に移植し、早期漁獲を目指

す。また、以前から消費者に評判の良い佐久島及び梶島のアサリをGI認証取得等のブランド化を目指し、差別化を行い、単価の上昇を図る。

アサリに代わる資源として、ハマグリが上げられる。ハマグリは近年、一色干潟でも散見されるようになり、確実に増えている。今後、資源が増えれば、特に潮干狩り場では、アサリに代わる集客の目玉となりうる。そこで、ハマグリ資源を積極的に増やすため、共同漁業権内に母貝場を設定し、密漁対策も実施したうえで資源を保護する。さらに、ハマグリの種苗生産を行い、稚貝を放流する。種苗生産については、既存の施設を利用して、試験的に実施する。その後、漁場や潮干狩り場でハマグリが増え、アサリの代替資源としての目処が立てば、放流種苗を量産化すべく種苗生産施設の建設を検討する。

同時に、今ある漁獲資源を有効利用するには、バカガイが最適である。バカガイは量的に多く漁獲されているが、春先の身入りの良い一時期を除いて安値で取引されている。出荷先は主に千葉県であり、そこでむき身等に加工され、最上級品はあおやぎの名で寿司ネタとして高値で取引されている。従って、なるべく高値で取引できるように、春先の大型で身入りの良い貝が獲れる時期は、大型貝のみが出荷できるように適切に選別する。また、その他の小型の貝も千葉県での加工の事例を学び、当地区での加工・出荷についても検討する。また、バカガイは地元及びこの地方の最大の消費地である名古屋圏で食習慣がないので、一色の朝市等で一般の人達にPRを兼ねて試食してもらい、その認知度を高める。

#### IV 「魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進」

先に述べたバカガイの様に地産地消を推進するためには、地元漁獲物の認知度を高めることが極めて重要である。そのため、当地区の観光施設である一色さかな広場や佐久島渡船場等に、バカガイ等の地元漁獲物を使った料理や土産物等の販売を行う店舗を建設することを検討する。

うなぎについても、一色地区は日本有数のうなぎの産地であり、「一色産うなぎ」は特許庁の地域団体商標（地域ブランド）に認定されている。しかし、知名度は低く、うなぎを地元で食べさせる店も少ない。そこで一色うなぎ漁協が生産者として生産したうなぎをアピールするために、鰻食堂を建設し、可能なら漁協の加工場（白焼き、蒲焼き）に隣接し、見学出来るようにする。

その他では、さかな祭や漁業祭等のイベントで地元水産物を紹介することや市内保育園、小中学校等で魚食について食育を行うことで西尾市や碧南市の水産物の知名度向上や需要の向上を図る。

## (2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

#### 担い手の確保

1. 各組合は新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確保する。
2. 新規就業者が漁業を続けていけるように漁業士を中心に技術支援を行い、サポートする。

#### 担い手の育成

1. 意欲ある漁業者に対しては、西三河広域水産業再生委員会及び県の関係機関は、県の内外を問わず、漁業技術、資源保護、魚食普及に関する取組に積極的に漁業者を関与させるため、種々の研修会、研究発表会及び会議に参加させると共に、情報提供及び技術指導を行う。
2. 西三河広域水産業再生委員会及び県の関係機関は漁業者自ら行う経費削減・所得向上の取組を積極的に支援する。
3. 西三河広域水産業再生委員会及び県の関係機関は中核的漁業者にふさわしい漁業者の幅広い知識及び人脈作りを支援する。

西三河広域水産業再生委員会は、上記のように積極的に漁業に取り組んでいる漁業者を中核的担い手と位置付け、漁業者団体の中で次世代を担うリーダーとしての活動を支援する。なお、中核的担い手のうちリース事業を活用しようとする漁業者を中核的漁業者として西三河広域水産業再生委員会で認定する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

太平洋広域漁業調整委員会指示第 15 号（イカナゴ伊勢・三河湾系群の資源管理）

愛知県漁業調整規則第 35 条（全長の制限、アサリの採捕の禁止区域）

愛知県漁業調整規則第 38 条（漁具の制限）

愛知県漁業調整規則第 42 条（電気設備の制限、中型まき網）

愛知県漁業調整規則第 44 条（漁船の総トン数及び馬力数の制限）

○資源管理計画

大濱漁協中型まき網漁業（定期休漁）

愛知県ぱっち網漁業者組合イカナゴ（解禁日及び終了日の設定）

愛知県ぱっち網漁業者組合イワシ類（定期休漁）

愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イカナゴ（解禁日及び終了日の設定）

愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イワシ類（定期休漁）

伊勢湾海域における小型機船底びき網（まめ板網漁業）（幡豆漁協、定期休漁）

東幡豆漁協小型機船底びき網（貝けた網及びえびけた網）漁業（定期休漁）

幡豆漁協小型機船底びき網（渥美外海板びき網）漁業（定期休漁）

西三河漁協吉良支所小型機船底びき網（渥美外海板びき網、貝けた網及びえびけた網）漁業（定期休漁）

西三河漁協吉良支所及び幡豆漁協さし網漁業（定期休漁）

幡豆漁協小型機船底びき網（改良備前網）漁業（休漁）

東幡豆漁協小型機船底びき網（改良備前網）漁業（休漁）

西三河漁協吉良支所採貝（長柄まんが）漁業資源管理計画（休漁）

西三河地区採貝（腰まんが）漁業資源管理計画（休漁）

西三河地区小型機船底びき網（貝桁網（水流噴射式けた網））漁業資源管理計画（休漁）



(4) 具体的な取組内容(年度ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成29年度)

取組内容	<p><b>【Ⅰ 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化】</b></p> <p>①大濱漁協は、製氷棟の建て替えのため需要調査、それに基づく製氷機等の選定、建物の規模の調査等を行う。</p> <p>②大濱漁協は、市場の経営を碧南魚市場株式会社から大濱漁業協同組合へ経営移行するため、経営ノウハウの継承や経営移行するための下準備を行う。</p> <p>③一色うなぎ・西三河・衣崎・吉田漁協は、一色うなぎ漁協が新設する冷蔵庫の活用方法(海苔網保存用としての施設の集約化)について検討する。</p> <p>④西尾市管内の漁協は、各自の組合の将来の水揚げ量予測に基づき、西尾管内の市場の将来構想について検討する。</p> <p>⑤一色うなぎ漁協は、養鰻水道について改修工事を行うため、工事について見積もり、設計する。</p> <p><b>【Ⅱ 漁業者の経営基盤の強化】</b></p> <p>①漁業者は、省エネ機器・増馬力機器の導入を推進し、生産性の向上に努める。</p> <p>②中核的漁業者については、漁船リース事業による中古船導入を検討する。</p> <p>③西尾市管内の西三河、衣崎、吉田漁協は、ノリ養殖を希望する漁業者について調査を行い、協業化の可能性について検討する。</p> <p><b>【Ⅲ 採貝漁業の立て直しー特にアサリ漁業の復活】</b></p> <p>①アサリの漁業者団体は、早期の資源の復活を目指し、三河湾東部、六条潟で大量に発生するアサリ稚貝の漁場への移植放流を移植後の成長が最も良い夏場に集中的に行い、翌春～初夏の早期漁獲に繋げる。</p> <p>②吉田漁協は、新たな二枚貝資源としてハマグリの子苗生産試験を行う。試験的に生産した種苗を放流し、その後の生残、成長を調査する。同時にアサリの漁業者団体は、ハマグリの子苗場としての保護区を設け、密漁監視を行う。</p> <p>③広域委員会は、消費者の認知度が低いバカガイについての試食等のPRイベントを行い、付加価値を付けて高値で売る方法について協議する。</p> <p><b>【Ⅳ 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進】</b></p> <p>①大濱漁協は、毎年10月に行われる漁業まつりで、漁協、漁業者、水産加工業者が協力して、地産地消の魚食普及の取組を行う。</p> <p>②大濱漁協は、碧南市内の保育園等でシラスを使った食育を行い、将来的な需要の掘り起こしを行う。</p>
------	---

	<p>③西尾市管内の漁協は、バカガイを始めとする地元食材のPR及びどのような料理で売り出すかさらにこれらを提供する食堂建設について検討する。また、佐久島、梶島のアサリのブランド化を検討する。</p> <p>④一色うなぎ漁協は、うなぎを提供する食堂について、具体的に計画し、設計を行う。</p> <p>【V中核的担い手の確保】</p> <p>①各漁協は、新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確保する</p> <p>②漁協は新規就業者の漁業技術の向上のため、漁業士の活用や漁協青年部などとの交流を積極的に進め地域で新規就業者のサポートに努める。</p> <p>③広域委員会は「中核的漁業者」を選定及び持続的な漁業の推進に向けた各種事業の実施を検討する。</p>
活用する支援措置等	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅰ－①、②、③、④、⑤、Ⅱ－③、Ⅲ－②、Ⅳ－③、④）</p> <p>内水面振興対策事業（Ⅰ－⑤）</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（Ⅱ－①）</p> <p>浜の担い手漁船リース緊急事業（Ⅱ－②）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（Ⅲ－①）</p> <p>アサリ有害生物駆除対策事業交付金（Ⅲ－①）</p> <p>愛知県水産業振興基金助成事業（Ⅲ－②）</p> <p>6次産業化推進整備事業（Ⅲ－③）</p> <p>碧南市農業水産振興対策事業補助金（Ⅳ－①）</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業（Ⅴ－①）</p>

<p>取組内容</p>	<p><b>【Ⅰ 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化】</b></p> <p>①大濱漁協は、製氷棟の建て替えのための、需要調査、それに基づく製氷機等の選定、建物の規模の調査等を行う。</p> <p>②大濱漁協は、市場の経営を碧南魚市場株式会社から大濱漁業協同組合へ経営移行し、市場改修のため、需要調査、設計及びその他の計画を策定する。</p> <p>③一色うなぎは、西三河・衣崎・吉田漁協の要望を踏まえ、新設する冷蔵庫の設計を行う。</p> <p>④西尾市管内の漁協は、各自の組合の将来の水揚げ量予測に基づき、西尾管内の市場の将来構想について検討する。</p> <p>⑤一色うなぎ漁協は、養鰻水道について年次計画に沿って改修工事を行う。</p> <p><b>【Ⅱ 漁業者の経営基盤の強化】</b></p> <p>①漁業者は、省エネ機器・増馬力機器の導入を推進し、生産性の向上に努める。</p> <p>②中核的漁業者については、漁船リース事業による中古船導入を検討する。</p> <p>③西尾市管内の西三河、衣崎、吉田漁協は、ノリ養殖を希望する漁業者について調査を行い、協業化の可能性について検討する。</p> <p><b>【Ⅲ 採貝漁業の立て直しー特にアサリ漁業の復活】</b></p> <p>①アサリの漁業者団体は、昨年度実行した方針について検証し、本年度のアサリ漁業の方針を立て、実行し、早期の資源の復活を目指す。</p> <p>②吉田漁協は、新たな二枚貝資源としてハマグリの子苗生産試験を引き続き行う。試験的に生産した種苗を放流し、その後の生残、成長を調査する。同時にアサリの漁業者団体は、ハマグリの子苗場としての保護区を設け、密漁監視を引き続き行う。</p> <p>③広域委員会は、消費者の認知度が低いバカガイについての試食等のPRイベントを引き続き行い、地元での消費を促進する。また、付加価値化に向けて、加工技術について千葉県等の先進地を視察する。</p> <p><b>【Ⅳ 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進】</b></p> <p>①大濱漁協は、毎年10月に行われる漁業まつりで、漁協、漁業者、水産加工業者が協力して、地産地消の魚食普及の取組を行う。</p> <p>②大濱漁協は、碧南市内の保育園等でシラスを使った食育を行い、将来的な需要の掘り起こしを行う。</p> <p>③西尾市管内の漁協は、バカガイを始めとする地元食材のPR及びどのような料理で売り出すかさらにこれらを提供する食堂建設につい</p>
-------------	--

	<p>て検討する。また、佐久島、梶島のアサリのブランド化を検討する。</p> <p>④一色うなぎ漁協は、うなぎを提供する食堂を建設し、運営を行う。</p> <p><b>【V中核的担い手の確保】</b></p> <p>①各漁協は、新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確保する</p> <p>②漁協は新規就業者の漁業技術の向上のため、漁業士の活用や漁協青年部などとの交流を積極的に進め地域で新規就業者のサポートに努める。</p> <p>③広域委員会は「中核的漁業者」を選定及び持続的な漁業の推進に向けた各種事業の実施を検討する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅰ－①、②、③、④、⑤、Ⅱ－③、Ⅲ－②、Ⅳ－③、④）</p> <p>内水面振興対策事業（Ⅰ－⑤）</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（Ⅱ－①）</p> <p>浜の担い手漁船リース緊急事業（Ⅱ－②）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（Ⅲ－①）</p> <p>愛知県水産業振興基金助成事業（Ⅲ－②）</p> <p>6次産業化推進整備事業（Ⅲ－③）</p> <p>碧南市農業水産振興対策事業補助金（Ⅳ－①）</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業（Ⅴ－①）</p>

<p>取組内容</p>	<p><b>【Ⅰ 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化】</b></p> <p>①大濱漁協は、製氷棟の建て替えのための具体的な案を構築する。</p> <p>②大濱漁協は、市場の改修を行う。</p> <p>③一色うなぎは、冷蔵庫の建設を行う。</p> <p>④西尾市管内の漁協は、各自の組合の将来の水揚げ量予測に基づき、西尾管内の市場の将来構想について決定する。</p> <p>⑤一色うなぎ漁協は、養鰻水道について年次計画に沿って改修工事を行う。</p> <p><b>【Ⅱ 漁業者の経営基盤の強化】</b></p> <p>①漁業者は、省エネ機器・増馬力機器の導入を推進し、生産性の向上に努める。</p> <p>②中核的漁業者については、漁船リース事業による中古船導入を検討する。</p> <p>③西尾市管内の西三河、衣崎、吉田漁協は、ノリ養殖を希望する漁業者について調査を行い、協業化の可能性について決定する。</p> <p><b>【Ⅲ 採貝漁業の立て直しー特にアサリ漁業の復活】</b></p> <p>①アサリの漁業者団体は、昨年度実行した方針について検証し、本年度のアサリ漁業の方針を立て、実行し、早期の資源の復活を目指す。</p> <p>②吉田漁協は、新たな二枚貝資源としてハマグリの子苗生産試験を引き続き行う。試験的に生産した種苗を放流し、その後の生残、成長を調査する。同時にアサリの漁業者団体は、ハマグリの子苗場としての保護区を設け、密漁監視を引き続き行う。また、吉田漁協は種苗生産施設建設について決定する。</p> <p>③広域委員会は、バカガイについてこれまでのPRを踏まえ、仲買人と共に名古屋市中央卸売市場への浸透を図る。また、バカガイの加工について検討する。また、加工場の建設について決定する。</p> <p><b>【Ⅳ 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進】</b></p> <p>①大濱漁協は、毎年10月に行われる漁業まつりで、漁協、漁業者、水産加工業者が協力して、地産地消の魚食普及の取組を行う。</p> <p>②大濱漁協は、碧南市内の保育園等でシラスを使った食育を行い、将来的な需要の掘り起こしを行う。</p> <p>③西尾市管内の漁協は、バカガイを始めとする地元食材のPR及びどの様な料理で売り出すかさらにこれらを提供する食堂建設について決定する。また、佐久島、梶島のアサリのブランド化を検討する。</p> <p>④一色うなぎ漁協は、引き続きうなぎを提供する食堂の運営を行う。</p>
-------------	--

	<p><b>【V中核的担い手の確保】</b></p> <p>①各漁協は、新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確保する</p> <p>②漁協は新規就業者の漁業技術の向上のため、漁業士の活用や漁協青年部などとの交流を積極的に進め地域で新規就業者のサポートに努める。</p> <p>③広域委員会は「中核的漁業者」を選定及び持続的な漁業の推進に向けた各種事業の実施を検討する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅰ－①、②、③、④、⑤、Ⅱ－③、Ⅲ－②、Ⅳ－③、④）</p> <p>内水面振興対策事業（Ⅰ－⑤）</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（Ⅱ－①）</p> <p>浜の担い手漁船リース緊急事業（Ⅱ－②）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（Ⅲ－①）</p> <p>愛知県水産業振興基金助成事業（Ⅲ－②）</p> <p>6次産業化推進整備事業（Ⅲ－③）</p> <p>碧南市農業水産振興対策事業補助金（Ⅳ－①）</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業（Ⅴ－①）</p>

<p>取組内容</p>	<p><b>【Ⅰ 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化】</b></p> <p>①大濱漁協は、製氷棟の建て替えのための設計を行う。</p> <p>②大濱漁協は、新市場の運営を行う。</p> <p>③一色うなぎは、冷蔵庫を稼働させ、秋季に西三河・衣崎・吉田漁協の海苔網冷蔵保存を行う。</p> <p>④西尾市管内の漁協は、西尾管内の市場再編を行う。</p> <p>⑤一色うなぎ漁協は、養鰻水道について年次計画に沿って改修工事を行う。</p> <p><b>【Ⅱ 漁業者の経営基盤の強化】</b></p> <p>①漁業者は、省エネ機器・増馬力機器の導入を推進し、生産性の向上に努める。</p> <p>②中核的漁業者については、漁船リース事業による中古船導入を検討する。</p> <p>③西尾市管内の西三河、衣崎、吉田漁協は、ノリ養殖の協業化に向けて加工場の設計を行う。</p> <p><b>【Ⅲ 採貝漁業の立て直し—特にアサリ漁業の復活】</b></p> <p>①アサリの漁業者団体は、昨年度実行した方針について検証し、本年度のアサリ漁業の方針を立て、実行し、早期の資源の復活を目指す。</p> <p>②吉田漁協は、新たな二枚貝資源としてハマグリの子苗生産試験を引き続き行う。試験的に生産した種苗を放流し、その後の生残、成長を調査する。同時にアサリの漁業者団体は、ハマグリの子苗場としての保護区を設け、密漁監視を引き続き行う。また、吉田漁協はハマグリ種苗生産施設の設計を行う。</p> <p>③広域委員会は、バカガイについての試食等のPRイベントを引き続き行い、加工品の販売ルートについて検討を行い、必要ならば、加工場の設計を行う。</p> <p><b>【Ⅳ 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進】</b></p> <p>①大濱漁協は、毎年10月に行われる漁業まつりで、漁協、漁業者、水産加工業者が協力して、地産地消の魚食普及の取組を行う。</p> <p>②大濱漁協は、碧南市内の保育園等でシラスを使った食育を行い、将来的な需要の掘り起こしを行う。</p> <p>③西尾市管内の漁協は、バカガイを始めとする地元食材のPR及びどの様な料理で売り出すかさらにこれらを提供する食堂の設計を行う。また、佐久島、梶島のアサリのブランド化を検討する。</p> <p>④一色うなぎ漁協は、引き続きうなぎを提供する食堂の運営を行う。</p> <p><b>【Ⅴ 中核的担い手の確保】</b></p>
-------------	--

	<p>①各漁協は、新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確保する</p> <p>②漁協は新規就業者の漁業技術の向上のため、漁業士の活用や漁協青年部などとの交流を積極的に進め地域で新規就業者のサポートに努める。</p> <p>③広域委員会は「中核的漁業者」を選定及び持続的な漁業の推進に向けた各種事業の実施を検討する。</p>
活用する支援措置等	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅰ－①、②、③、④、⑤、Ⅱ－③、Ⅲ－②、Ⅳ－③、④）</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（Ⅱ－①）</p> <p>浜の担い手漁船リース緊急事業（Ⅱ－②）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（Ⅲ－①）</p> <p>愛知県水産業振興基金助成事業（Ⅲ－②）</p> <p>6次産業化推進整備事業（Ⅲ－③）</p> <p>碧南市農業水産振興対策事業補助金（Ⅳ－①）</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業（Ⅴ－①）</p>



<p>取組内容</p>	<p><b>【Ⅰ 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化】</b></p> <p>①大濱漁協は、製氷棟の建て替えを行う。</p> <p>②大濱漁協は、新市場の運営を行う。</p> <p>③一色うなぎは、引き続き冷蔵庫を稼働させ、秋季に西三河・衣崎・吉田漁協の海苔網冷蔵保存を行う。</p> <p>④西尾市管内の漁協は、西尾管内の市場再編を行う。</p> <p>⑤一色うなぎ漁協は、養鰻水道について年次計画に沿って改修工事を行う。</p> <p><b>【Ⅱ 漁業者の経営基盤の強化】</b></p> <p>①漁業者は、省エネ機器・増馬力機器の導入を推進し、生産性の向上に努める。</p> <p>②中核的漁業者については、漁船リース事業による中古船導入を検討する。</p> <p>③西尾市管内の西三河、衣崎、吉田漁協は、ノリ養殖の協業化に向けて加工場を建設する。</p> <p><b>【Ⅲ 採貝漁業の立て直し—特にアサリ漁業の復活】</b></p> <p>①アサリの漁業者団体は、昨年度実行した方針について検証し、本年度のアサリ漁業の方針を立て、実行し、早期の資源の復活を目指す。</p> <p>②吉田漁協は、新たな二枚貝資源としてハマグリの子苗生産試験を引き続き行う。試験的に生産した種苗を放流し、その後の生残、成長を調査する。同時にアサリの漁業者団体は、ハマグリの子苗場としての保護区を設け、密漁監視を引き続き行う。また、吉田漁協はハマグリ種苗生産施設の建設を行う。</p> <p>③広域委員会は、バカガイについての試食等のPRイベントを引き続き行い、販路拡大及び付加価値化のための加工場の建設を行う。</p> <p><b>【Ⅳ 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進】</b></p> <p>①大濱漁協は、毎年10月に行われる漁業まつりで、漁協、漁業者、水産加工業者が協力して、地産地消の魚食普及の取組を行う。</p> <p>②大濱漁協は、碧南市内の保育園等でシラスを使った食育を行い、将来的な需要の掘り起こしを行う。</p> <p>③西尾市管内の漁協は、バカガイを始めとする地元食材のPR及びこれらを提供する食堂の建設を行う。また、佐久島、梶島のアサリのブランド化を検討する。</p> <p>④一色うなぎ漁協は、引き続きうなぎを提供する食堂の運営を行う。</p> <p><b>【Ⅴ 中核的担い手の確保】</b></p> <p>①各漁協は、新規漁業就業者総合支援事業を利用し新規就業者を確</p>
-------------	--

	<p>保する</p> <p>②漁協は新規就業者の漁業技術の向上のため、漁業士の活用や漁協青年部などとの交流を積極的に進め地域で新規就業者のサポートに努める。</p> <p>③広域委員会は「中核的漁業者」を選定及び持続的な漁業の推進に向けた各種事業の実施を検討する。</p>
活用する支援措置等	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業（Ⅰ－①、②、③、④、⑤、Ⅱ－③、Ⅲ－②、Ⅳ－③、④）</p> <p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（Ⅱ－①）</p> <p>浜の担い手漁船リース緊急事業（Ⅱ－②）</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業（Ⅲ－①）</p> <p>愛知県水産業振興基金助成事業（Ⅲ－②）</p> <p>6次産業化推進整備事業（Ⅲ－③）</p> <p>碧南市農業水産振興対策事業補助金（Ⅳ－①）</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業（Ⅴ－①）</p>

#### （5）関係機関との連携

<p>I 組合施設の機能再編による生産体制の強化・効率化</p> <p>広域委員会、県、市が連携して当地域での機能再編計画を立案する。</p> <p>II 漁業者の経営基盤の強化</p> <p>広域委員会、県、市が連携して事業を進める。</p> <p>III 採貝漁業の立て直しー特にアサリ漁業の復活</p> <p>漁業者団体が県の行政、試験場、市と連携して事業に取り組む。ハマグリ の 種 苗 生 産 だ け で は、 県 の 水 産 業 振 興 基 金 か ら 助 成 を 受 け て 行 っ た り 。</p> <p>IV 魚価向上のため地元食材のPRによる地産地消の推進</p> <p>漁業者、仲買人、加工業者、地元観光業者等と連携して事業を進める。</p>
---

#### （6）他産業との連携

<p>西三河地区は三河湾国定公園が含まれ、吉良温泉、佐久島一色さかな広場等の観光スポットが存在し、潮干狩りが各地で盛んに行われている。また、アサリ、トリガイ、バカガイの全国有数の産地でもある。そこで、地元観光業者等と連携し、これらの誇れる食材で地元を中心に名古屋圏等でPRし、認知度を広げることが魚価向上につながる。</p>
--

#### 4 成果目標

##### (1) 成果目標の考え方

○現在 4 カ所ある鮮魚市場を 2 カ所に集約し、平均単価 5%以上の上昇を目指す。また、イワシ類中心の大濱漁協が市場を譲り受け、漁協が運営することにより、販売手数料を現在の 8%から 6%へ引き下げる。

○中核的漁業者を各組合に最低二人以上、西三河地区で 20 人以上を養成する。

##### (2) 成果目標

市場平均単価	基準年	496 円/kg (4 カ所平均、5 中 3 年平均) 8% (現在の大濱魚市場 (株) 販売手数料)
	目標年	520 円/kg (平成 33 年)、 6% (大濱漁協市場、平成 33 年)
西三河地区中核的漁業者数	基準年	0 人 (平成 28 年)
	目標年	20 人 (平成 33 年)

##### (3) 上記の算出方法及びその妥当性

○西尾地区の市場の集約化  
西尾地区には現在、鮮魚を主に扱う市場が4カ所（西三河漁協・一色支所、吉良支所、幡豆漁協、東幡豆漁協）あるが、今後、西三河漁協吉良支所は一色支所へ統合され、東幡豆漁協の市場廃止に伴い、その一部が幡豆に水揚げされ、2カ所に集約される。それに伴う鮮魚、仲買人の集約化による平均単価の上昇が期待される。

大濱漁協では、直営の市場が無く、民間が市場を運営しているが、市場が大濱漁協に譲渡され、経営の効率化を行い、販売手数料を2%引き下げる。

○西三河地区中核的漁業者数  
西三河地区の6沿海漁協、1養殖漁協に最低2名（合計14名）、さらに6漁協が合併した西三河漁協においては、組合員数も多く、さらに6名以上の中核的漁業者の養成を目指す。

#### 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
水産業競争力強化緊急施設整備事業	競争力強化のために必要な施設の整備、産地市場の統廃合等を推進するために必要な施設の整備及びそれら施設に関連する旧施設の撤去を行う。（全地区）
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入を行う。（全地区）
浜の担い手漁船リース緊急事業	中核的漁業者への中古漁船リース（全地区）

水産多面的機能発揮 対策事業	干潟保全、藻場造成及び干潟耕耘等に対する補助 (吉田、衣崎、西三河、幡豆、東幡豆漁協)
新規漁業就業者総合 支援事業	新規漁業就業者を確保するための支援事業 (全地 区)
6次産業化推進整備 事業	地元で獲れる魚介類の高付加価値化 (全地区)
愛知県水産業振興基 金助成事業	ハマグリ種苗生産 (吉田漁協)
碧南市農業水産振興 対策事業補助金	漁業まつりに対する補助 (大濱漁協)
内水面振興対策事業 (西尾市)	ウナギ養殖に必要不可欠な矢作川表流水を送水する養 鰻水道の敷設替を行う。 (一色うなぎ漁協)
アサリ有害生物駆除 対策事業交付金 (西尾市)	水産多面的機能発揮対策事業で使用する道具等の購入 費用を交付する。 (西三河、衣崎、吉田、幡豆、東 幡豆漁協)